

# 市町村の 元気印

## 50年間愛されてきたビルを 再び、まちのシンボルの存在に

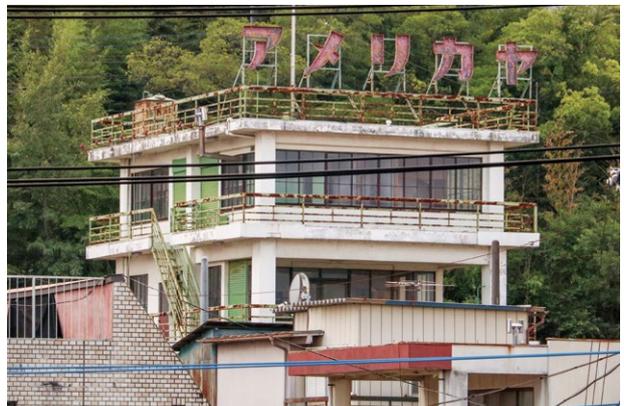
株式会社アトリエいろは 一級建築士事務所

代表取締役 千葉 健司

高校生の頃、駅のホームからずっと気にしていたビルがありました。そのビルの名前は「アメリカヤ」といって、葺崎駅前商店街のシンボルの存在。アイスクャンデーが有名で、2階の喫茶店は、地元の人ならみんな一度は行ったことがあるようなお店でした。もちろん私も利用していました。

15年前、そのビルのオーナー・星野貢さんが亡くなり、「アメリカヤ」は惜しまれながら閉鎖。それからはずっと空きビルの状態でした。どんどん老朽化していく様子を他人事にして眺めていることは難しく、「アメリカヤをリノベしたい！」と願いを口にしていました。

私が代表をつとめる「イロハクラフト (IROHA CRAFT)」は、ずっと大切に住み継がれる住まいづくりを大切にしています。山梨県は全国空き家率ナンバーワンの都道府県です。古くなったり、使われなくなったものを見て見ぬ振りしたり、壊したりするのでなく、直したり、磨いたりして、価値を創造するようになりノベ



アメリカヤ看板  
50年間愛され続けてきた街のシンボルが再び動き出します

ションも得意分野の一つです。そこで今回の「アメリカヤ」。「アメリカヤ」は今も昔も、訪れるたびワクワクさせてくれる建物です。「絶対に壊したくない」「壊してはいけない」と思い続けていました。だから「アメリカヤのフルリノベ」は私の夢の一つだったのです。「アメリカヤをリノベしたい」と口にし続けていたある日、知人の紹介でオーナーの息子・三男さんにお目にかかれることに。お会いしてみると三男さんはビルの管理に非常に困りの様子でした。しかし、そのビルは親が建てたものであり、長い間居住してきた住まい。「中途半端にビルを貸せない」という想いをもっていらっしやいました。でも、ビル



イロハメンバー  
まずは自分たちが楽しみながら！  
リノベを進めています。

への強い思いや愛着は私も同じです(笑)。壊してはいけけないということ、ポテンシャルの高い建物であり、もう一度面白くなるだろうということ、自分がやらなければいけないと使命感を感じていることなどを伝えました。すると、私の話を聞いてくれた三男さんが、喜んでくれました。これがこのプロジェクトにおいて、私が最もテンションの上がった始まりの瞬間です。

2017年9月にリノベが決定し、同年11月着工。いざプロジェクトを始めると、予想以上に多くの人が「アメリカカヤ」に注目してくれました。50年前に建てられ、15年間手入れをされていなかったビルは、あちこち傷んでいました。それでも、「間違いない」の直感は当たっていたと思います。屋上の看板や八ヶ岳と富士山の両方を望む景観、螺旋階段や、壁を取っ払ったら出てきたカラフルな窓ガラスなど色々なものが関係者をワクワクさせてくれました。中でも、地下水。「アメリカカヤ」のビルの地下から湧き出ている地下水脈がまだ生きており、水質検査してみると非常においしい軟水だということが判明しました。「水を使ってほしい」とのオーナーご家族の思いもありました。その水を使って、再び人を喜ばせる何か動き出すことを想像すると嬉しくなります。

「アメリカカヤ」のプロジェクトは色々な人の思いが集まったものになりました。1階はカフェ、2階は弊社が管理するショップ。DIYに関するグッズの展示&販売、工具の貸し出しやDIYのレクチャーなどを行います。3階は貸店舗。本屋やレコード屋、写真館などどこでしか出会えない個性的なショップが集まります。4階は弊社の事務所ですが、5階



工事中は殺風景。  
ここはカフェに生まれ変わる

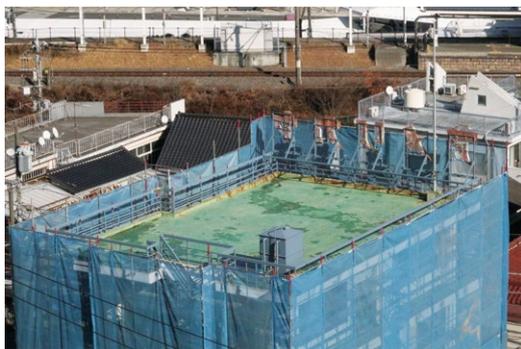


26項目の水質基準値をほぼ1/10  
以下でクリアしたおいしい水です。

はコミュニティスペース。駅で電車を待つ人や韭崎駅前を訪れる人など、たくさんの人に自由に使ってもらいたいと考えています。「こうしたら面白いかな?」とワクワクしながら図面を引き、ワクワクしながら今も仕事を進めています。

想像通りかそれ以上に、「アメリカカヤ」は人を惹きつける魅力がある建物でした。人をよぶ魅力がある建物には、人をよぶ魅力がある人たちがその空間のオーナーになりたいと名乗りをあげてくれています。私たちは、「アメリカカヤ」を、ただオシャレなだけのなかで終わらせるつもりはありません。私が高校生の頃から憧れ続けている「アメリカカヤ」のように、老若男女が気軽に集える場所になりたい。地域の人が「行ったことあるよ」と笑い合い、戻りたくなる、何度でも行きたくなる場所になってほしいと願います。それが、このエリアを元気にするスパイスになると信じています。このプロジェクトが同じ課題を抱える商店街でのモデルになり、ここだけではなくあちこちで、古き良き街並みを蘇らせられるようなワクワクする仕掛けが広がってほしいと思います。

「アメリカカヤ」は4月にオープンします。色々な人に支えられ、色々な人が「一緒に盛り上げていこう」と寄り添ってくれていることを日々感じています。ずっとワクワクを与え続けられる場所であるために、コンテンツも充実させていかなければいけません。僕たちイロハクラフトは、建築を通して「想い」をつなぐお手伝いをするを理念に掲げています。「アメリカカヤ」という街のシンボリックビルのフルリノベーションによって、人と人がつながり、人と街がつながり、商店街に再びたくさんの人を呼び戻す大きな「想い」として膨らんでいくことを願っています。



アメリカカヤは2018年4月オープン。  
完成をお楽しみに!



平成30年度に固定資産の評価替えがあると聞きましたが、評価替えとは何ですか。また、最近地価が下落していますが、こうした地価の変動は固定資産税の評価額に反映されるのですか。



評価替えとは、3年ごとに固定資産の評価額を見直すことです。

固定資産税は固定資産が持つ資産価値に着目して課税するものです。

したがって、毎年度評価替えを行い、その結果をもとに課税していくことが本来は理想的ですが、膨大な量の土地、家屋について毎年度評価を見直すことは事実上不可能です。また、課税事務の簡素化、徴税コストの低減を図る必要もあります。

そこで、土地と家屋については原則として3年間評価額を据え置く、言い換えれば3年毎に評価額を見直す制度がとられています。前回の評価替えが平成27年度でしたので、次の評価替えは平成30年度となり、現在、各市町村で作業を進めているところです。

なお、第2年度（評価替え年度の翌年度）、第3年度（評価替え年度の翌々年度）において地価の下落があり、価格を据え置くことが適当でないときは、簡易な方法により評価額を修正できるようになっています。

平成30年度の土地の評価額については、平成29年1月1日を価格調査基準日として評価替えを行います。

しかしながら、宅地の場合、市町村長がこの価格調査基準日以降も地価が下落していると認める地域については、価格調査基準日（平成29年1月1日）から平成29年7月1日までの半年間の地価の下落状況を評価額に反映することができる措置（下落修正措置）が講じられます。

なお、土地に係る固定資産税は、地価が下落しているのに、土地の税額が上がる場合があります。これは、土地の評価額が急激に上昇した場合であっても、税負担の上昇はゆるやかなものになるよう、課税標準額を徐々に是正する負担調整措置が講じられています。地価が下落する中で税負担が上昇する土地は、本来の課税標準額に比べて、現在の課税標準額が低いいため負担調整措置により本来の課税標準額に向けた是正過程にあるものです。



県内市町村の基金残高の状況を教えてください。



平成18年度末と平成28年度末の県内市町村の基金残高を比較すると、平成18年度末は99,468百万円であり、平成28年度末は151,500百万円となり、52,032百万円増加しています。

このうち、財政調整基金は25,268百万円、減債基金は3,373百万円、特定目的基金は23,391百万円増加しています。

出典：基金の積立状況等に関する調査結果・調査個別データ（平成29年11月 総務省自治財政局）

単位：百万円

	平成28年度末	平成18年度末	増減額	増減率
基金残高	151,500	99,468	52,032	52.3%
13市	104,087	67,979	36,108	53.1%
14町村	47,413	31,489	15,924	50.6%
(内訳)				
財政調整基金	58,079	32,811	25,268	77.0%
13市	37,276	22,125	15,151	68.5%
14町村	20,803	10,686	10,117	94.7%
減債基金	13,383	10,010	3,373	33.7%
13市	8,365	5,175	3,190	61.6%
14町村	5,018	4,835	183	3.8%
特定目的基金	80,038	56,647	23,391	41.3%
13市	58,446	40,679	17,767	43.7%
14町村	21,592	15,968	5,624	35.2%

財政調整基金の積立て理由は、回答数が多い順に、社会保障関係経費の増大（18）、公共施設等の老朽化対策等に係る経費の増大（14）、人口減少による税収減、普通交付税の合併算定替による特例措置の適用期限終了（11）となっています。

また、特定目的基金の使途等については、回答数が多い順に、庁舎以外の公共施設の整備（65）、教育振興（41）、農林水産業振興（36）、高齢者対策（35）となっています。

さらに、基金積立ての方策等については、平成18年度から平成28年度の間に対前年比で基金が増加した場合に、その財源をどのように確保したかについては回答数が多い順に、税収如何にかかわらず、行革、経費節減等により捻出した額（21）、歳出の不用額（17）、予算見込みを上回った税収（11）となっています。

以上のことから、将来の歳出増及び歳入減を見込んで、行政改革や経費節減等により財源を捻出し、基金に積立てていることがわかります。

※ 括弧内の数字は、市町村の回答数（複数回答）



基金をめぐるどのような議論があるのか教えてください。



基金をめぐる議論としては、近年、市町村の基金残高が増加していることから、各地方自治体の基金残高の増加要因を分析し、国・地方を通じた財政資金の効率的配分に向けて、地方財政計画への反映につなげようという議論があります。

一方では、地方自治体の基金は、長期的視野を持って財政運営を行う中で、地域の実情も踏まえ、景気の変動や人口減少に伴う税収減、公共施設等の老朽化対策や災害への対応、社会保障関係経費の増大などの状況に備えるため基金の積立を行っており、また、多くの地方自治体では積立の財源を行政改革や経費の節減等により捻出している状況から、基金残高の増減は、様々な課題を抱える地方自治体が、自らの判断に基づき安定的な財政運営を行った結果として尊重されるべきものという議論もあります。

今後も基金について様々な議論が交わされると思われるため、その動向には注意が必要ですが、基金については、各地方自治体が真に必要な事業を適切に実施できる環境を整備し、議会・住民への説明責任をしっかりと果たしていくことがより重要になります。

出典：今後目指すべき地方財政の姿と平成30年度の地方財政への対応についての意見（平成29年12月12日 地方財政審議会）



ラスパイレス指数について教えてください。



ラスパイレス指数とは、国家公務員行政職俸給表（一）の俸給月額を100とした場合における地方公務員一般行政職の給与水準を示すものになります。

ラスパイレス指数の算出方法は、職員構成を学歴別、経験年数別に区分し、地方公共団体の職員構成が国の職員構成と同一と仮定して算出するものであり、地方公共団体の仮定給料総額（地方公共団体の学歴別、経験年数別の平均給料月額に国の職員数を乗じて得た総和）を国の実俸給総額で除して得る加重平均になります。

【ラスパイレス指数計算例】

(大学卒)						
経験年数	職員数(人)		平均俸給(給料)月額(百円)		A×B (百円) D	A×C (百円) E
	国 A	国 B	対象団体 C			
1年未満	1,139	1,772	1,770		2,018,308	2,016,030
1年以上 2年未満	1,296	1,816	1,840		2,353,536	2,384,640
2年以上 3年未満	1,930	1,877	1,910		3,622,610	3,686,300
3年以上 5年未満	5,107	1,988	2,026		10,152,716	10,346,782
5年以上 7年未満	6,083	2,155	2,190		13,108,865	13,321,770
7年以上10年未満	8,929	2,408	2,426		21,501,032	21,661,754
10年以上15年未満	14,322	2,847	2,824		40,774,734	40,445,328
15年以上20年未満	11,949	3,409	3,339		40,734,141	39,897,711
20年以上25年未満	9,349	3,909	3,741		36,545,241	34,974,609
25年以上30年未満	7,308	4,237	4,060		30,963,996	29,670,480
30年以上35年未満	3,725	4,395	4,305		16,371,375	16,036,125
35年以上	743	4,453	4,526		3,308,579	3,362,818
計	71,880			F	221,455,133	217,804,347
(短大卒)						
計	14,795			H	47,597,237	47,358,944
(高卒)						
計	70,529			J	242,662,928	238,870,033
(中学卒)						
計	153			L	516,717	527,095
ラスパイレス指数 = $\frac{G + I + K + M}{F + H + J + L} \times 100$						
= $\frac{217,804,347 + 47,358,944 + 238,870,033 + 527,095}{221,455,133 + 47,597,237 + 242,662,928 + 516,717} \times 100$						
= 98.50232 = 98.5 (小数点以下第2位四捨五入)						

【県内市町村ラスパイレス指数】

団体名	H29.4.1
甲 府 市	99.0
富 士 吉 田 市	99.3
都 留 市	97.5
山 梨 市	97.9
大 月 市	95.6
韮 崎 市	98.7
南アルプス市	99.4
北 杜 市	99.1
甲 斐 市	97.4
笛 吹 市	98.2
上 野 原 市	95.9
甲 州 市	94.6
中 央 市	97.4
市川三郷町	96.4
早 川 町	97.1
身 延 町	94.9
南 部 町	94.6
富 士 川 町	97.9
昭 和 町	93.9
道 志 村	96.8
西 桂 町	93.6
忍 野 村	92.9
山 中 湖 村	92.9
鳴 沢 村	96.5
富士河口湖町	95.9
小 菅 村	89.2
丹 波 山 村	96.4
市	98.1
町 村	95.5
市 町 村	97.5

地方公共団体の給与は、地方公務員法第24条に規定されている均衡の原則により、国家公務員の給与等を考慮して定められるべきものです。

右表は県内市町村のラスパイレス指数 (H29.4.1) になります。かつては、100を超えていた団体もありますが、団体の適正化に向けた取り組みにより改善が図られ、現在では100を超えている団体はありません。

各市町村においては、今後とも適正な水準が維持できるよう留意していく必要があります。

# 市町村調査研究事業

平成28年度に山梨県市町村振興協会の助成金を活用して、市町村職員が自主的・主体的に行った計6団体の調査研究事業のうち、3団体を紹介いたします（他3団体については29年9月号に掲載）。

## 富士吉田市

### 人口減少等の課題に対する 方策の調査研究について

「富士吉田市職員提案プロジェクトチームイベント事業班」  
まちづくり部ふるさと納税推進室 長坂 僚太



#### 研究の経緯

本市の総合戦略の基本目標を主軸として、例年実施している各事業（イベント）の効果を調査分析し、イベントを通じて更に本市の魅力を積極的に発信することにより、市内に人を呼び込み、交流人口増から社会増への転換に繋げられるような人口減少対策の方策について調査研究を行った。

#### 若い世代への意向調査・周知方法について

既存のイベントに対する市民の参加状況の把握、認知方法、需要などを若い世代を中心に調査したところ、長年行われているイベントへの参加が多数を占め、参加しない理由としては“知らない”という回答が多かった。また、各イベントに出向き、参加者へのアンケートを実施したところ、満足度は高かったことから今後はどのように“周知していくか”が課題として浮き彫りになっていく。

その中で部数に限りのある、広報やチラシ等の高価な媒体と比べて、「いつでも」、「だれでも」、「どこにいても」アクセスが可能で拡散力が高く、安価なSNSは、若い世代をターゲットに周知するためには有効な手法だと考える。

#### イベントの提案

全てのイベントは概要、コンテンツ、管理、効果と結

果、責任、成果といった共通する6つの構成要素からできており、この要素に沿うことで一貫性のあるイベントの制作が可能となる。

他市町村でイベントを主催している自治体職員や民間事業者との意見交換、行政管理講座の受講を踏まえ、私たちは「30歳の成人式」を企画した。企画したイベントにおいては、「現在県外へ就職している人たちに向けて情報交換の場を提供し、Uターンのきっかけ作りを行う」、「地元で働いている人とのマッチングの機会を作る」、「30歳という節目で自分自身を見つめ直す」ことを目的として作成した。

#### 管理職への提案、意見を踏まえての考察

管理職からは「SNSによるアプローチはターゲットを絞りやすく、興味のある情報にたどりつきやすいため、今後の広告費用に検討していく必要がある」、「30歳の成人式はある節目に自分を振り返る機会を提供することは、わが市の特色のある新鮮な切り口によるアイデアが肝要で日々磨く必要を感じた」との意見をいただいた。

今回は職員提案プロジェクトチームとして、「イベント×人口減少」というテーマで調査研究や提案を行うことが主となっていたが、私たちは「30歳の成人式の実現に向けて引続き活動を継続していきたいと考える。



## 韮崎市

# 発達障がい児に対する支援と それに必要な連携に関する 研究について

「韮崎市発達障がい児支援連携研究会」  
福祉課 早川 洋

**本**市では市長が提唱する「チーム韮崎」の理念の下、「子育てするなら韮崎市」を合言葉に子育て支援に力を入れており、韮崎駅前の市民交流センター「ニコリ」内にある子育て支援センター（にらちび）の活動などは、内外を問わず高く評価をいただいているところであります。

しかし子育て支援に関する施策は、福祉・教育・保健・医療など多分野に亘るため、ライフステージによって支援者が変わり、連携が途切れやすい傾向にあります。特に発達障害児に対する支援に関しては、障害の見立てが難しいことや、周囲からの理解が得られにくいことから、多くの支援者を悩ませてきました。

そのような背景の中、平成26年に「韮崎市発達障害児支援連携会議」（以下「会議」）を立ち上げ、各分野の支援者が一堂に会し話をする中で、連携が取りやすい土壌ができました。その一方で、課題の解決に関しては方向性が見いだせない状況にあったため、会議の主要メンバーを中心に研究会を立ち上げ、山梨英和大学の小林真理子教授をアドバイザーに迎えて、課題の抽出や、より良い支援・連携のあり方を探ることとしました。

初めは、これまでの会議の議事録や各支援者が保

有する情報を分析し、詳細な現状把握に努めました。が、個人情報保護法の壁から具体的な情報が集まらず、連携の難しさを再認識する出だしとなりました。しかし、14回に渡る研究会を重ねていくにつれて、必要なことが徐々に見え、特に現状分析から発達障害児は虐待を受けるリスクが高いこと、アドバイザーから必要かつ効果的な連携方法や会議のあり方を学んだこと、「NPO法人ちびっこはうす」職員との意見交換から、今後は民間も交えた連携が不可欠と感じたことなど、貴重な経験になりました。また、これらを基に会議の場を要保護児童対策地域協議会の実務者会議に移し、虐待防止の視点や個人情報の問題に対応したこと、保育現場での個人情報の提供に関する保護者同意の徹底、支援者研修の充実など、その後の施策に結びつけることができました。

今回の研究を通じ、限られた条件の中で成果を挙げるには、文字通り市が一つの「チーム」として横の連携を強化する必要があること、それをメンバー全員で実感できたことが最大の成果だったと考えています。この経験を平成30年度に開設される「韮崎すくすく子育て相談センター」（子育て世代包括支援センター）との連携にも活かして行きたいと思っております。



## 甲州市

過疎地域における地域資源の  
利活用とおもてなし体制に  
関する研究

「大和町活性化プロジェクトチーム」  
福祉課 佐藤 希

甲州市の南東部に位置する大和地域は、甲府盆地の最東端に位置し総面積の約9割を山林が占める山村で過疎地域に指定されています。市の人口ビジョンでは、大和地域は今後30年間で500人余りが減少し、高齢化率は40%を超える高い水準で推移していくことが予想されています。現在においても、就業や就学、立地の関係から若者が地域外に移住する傾向が強く、地域内における生活機能が低下しつつあり集落の維持が困難になっている地区も出てきています。

一方で、交流人口は年々増加傾向にあり、昨今の健康志向や登山ブームの影響を受け大菩薩嶺、小金沢連嶺への登山が人気を博しており、多くの観光客にお越しいただいている状況となっています。また、ハイシーズンには、山岳観光地への交通拠点であるJR甲斐大和駅周辺が交通機関を待つ観光客で混雑し大変な賑わいをみせる場面もあります。このような状況を受けて地域では、更なる誘客と地域資源の発信を目的として、大菩薩嶺、小金沢連嶺を「甲州アルプス」の愛称で呼び普及させる取り組みも行われています。

これら地域の状況を踏まえる中で、観光客へのおもてなしと誘客促進を図る方策を検討するため、地域出身の若手職員を中心とするメンバーでグループを結成し調査研究事業を実施しました。

調査研究では、観光客のニーズを把握するためのアンケート調査に始まり、山岳観光地への交通拠点であるJR甲斐大和駅周辺の状況調査、山岳観光を推進している地域への視察、地域で観光業に携わっている方を招いての勉強会を行う中で課題の整理を行いました。また、より実行性の高い方策を検討するため、課長職の職員を講師に招き課題解決に導くための手法や事業の立案のプロセスについても研究を行い、実現性や費用対効果を踏まえる中で、駅周辺の整備に関する提言をまとめ、市及び地域のまちづくり組織に提案を行いました。

調査研究事業を通じて、来訪者のニーズや諸々の課題を把握できたことは大変意義のある活動であったと実感しています。今回の活動が市の事業や地域住民の新たな取り組みに繋がるよう期待するとともに、活動の中で得た経験や成果を今後の業務や地域活性化への取り組みに活かして行きたいと思います。

## 市町村調査研究事業の紹介

市町村職員が自主的、主体的に実施する調査研究事業に対し、次のとおり助成を行います。

- |       |                                                       |         |                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------|---------|---------------------------------------------------|
| ①助成対象 | 単独または複数の市町村職員で構成する調査研究グループ（市町村長等から推薦がある4人以上の調査研究グループ） | ③助成対象経費 | 事務費、アンケート・聞き取り実施に伴う経費、検討会費、旅費交通費、アドバイザー謝礼、報告書印刷費等 |
| ②対象事業 | 市町村職員が行う調査研究事業（対象事業のテーマは問いません）                        | ④助成額    | 助成対象経費の全額（30万円限度）                                 |
|       |                                                       | ⑤助成期間   | 原則単年度。継続事業にあっては最大限2年間                             |

県と市町村、また、市町村間において職員交流が盛んに行われています。

今回は、市町村から県へ派遣され活躍している皆さんに登場していただき、近況を紹介していただきました。



市町村課  
地域振興担当  
**中込 孝夫**  
(南アルプス市)

平成 29 年 4 月から、南アルプス市より研修生として総務部市町村課にてお世話になっております。当初は不安や緊張などもありましたが、振り返れば内容の濃いあつという間の 1 年だったと感じています。

私は地域振興担当として、主に電源立地地域対策交付金に関する業務や地域活性化センターの助成事業に関する業務などを担当させていただいており、また平成 29 年 11 月に行われた「県民の日記念行事・市町村ときめき広場」の運営を行いました。

電源立地地域対策交付金は、道路整備などのハード事業のみならず、図書館や公有バスの運営などのソフト事業を含め、幅広い事業が対象となります。そのため、市町村から提出される書類も多岐に渡り、配属初日には何をどこから見てよいやらさっぱりわからない書類が山積みされておりました。しかし、市町村課の皆様の心強いサポートを受けながら、一連の業務をこなしていくことができました。

その後も、各市町村が交付金をどのように利活用しているのか、どのようなスタンスで「まちづくり」をしているのかなど、様々な業務を通じて、地域振興の観点から大いに勉強になりました。

また、同じ市町村研修生とも、時には同じ悩みを共有し様々な研修を通して交流を深めることができました。この経験は研修期間が終了しても、私にとって貴重な財産となります。

最後になりますが、貴重な機会を与えてくださった南アルプス市役所の皆様、また日頃からお世話になっている市町村課の皆様に感謝申し上げます。残された少ない研修期間を、より一層精進して参りますので、宜しくお願ひいたします。



市町村課  
財政担当  
**依田 拓樹**  
(中央市)

平成 29 年 4 月より、中央市から市町村研修生として総務部市町村課にお世話になっております。

早いものでもう 1 年が経とうとしていますが、4 月当初は業務内容や仕事の進め方等、様々な部分においてで経験したものとは異なり、1 年間を全うできるのか、不安な毎日でしたが、まわりの皆様に助けられ何とかここまで来ることができたと感じています。

私は財政担当として、市町村や一部事務組合の予算・決算の調査及び分析や、地方債の業務に関することを主として行っています。財政経験のない私はすべてが一からの勉強となりはじめは四苦八苦の連続でしたが、まわりの方のサポートもありなんと今日に至ることができました。

県という今までとは違った立場で仕事をするにより、他市町村の状況を知ることができ、仕事に対する視野が広がったように感じています。また、県や国の役割と市町村の役割の違いを再認識することができ、市町村とはどうあるべきなのかを多く考えさせられる 1 年でした。

この 1 年を単なる経験で終わらせることのないように、今後より切磋琢磨し精進を重ねていきたいです。

最後になりましたが、要領の悪い私の照会等にも、迅速・丁寧にご対応していただいた各市町村・一部事務組合ご担当の皆様、温かくご指導くださる市町村課の皆様、同じ悩みや苦労を共有し 1 年間共に過ごした市町村研修生の皆さん、今回の機会を与えてくださった中央市の皆様、いつも私を支えてくれる家族に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



中部横断自動車道  
推進事務所  
工務課  
**藤野 陽介**  
(身延町)

時が経つのは早いもので、平成 29 年 4 月より身延町から市町村研修生として中部横断自動車道推進事務所にお世話になり一年が経とうとしています。

私は、ここで工務担当として道路整備や管理に関わる業務をさせて頂いております。配属当初は、業務の流れ、システム等すべてが違う職場環境に不安と戸惑いを感じましたが、周囲の方々からの温かいご指導とサポートをいただき、何とか今日に至っています。

ここでの業務は、町の事業では経験できないことばかりで、県という広い視点で業務を行えることはとても貴重で、その経験全てが私の成長に繋がると感じています。

また業務以外においても、県職員スポーツ大会に、中部横断自動車道推進事務所の一員として参加させてもらうなど、職場環境に少しでも早く馴染めるようにいろいろ配慮していただきました。おかげで新しい環境にも慣れることができ、業務のしやすい環境を整えてくれたことにとっても感謝しています。限られた期間での出向となりますが、私が研修職員として配属された意味を常に考えながら、一日一日を大切にしていきたいと考えています。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました身延町役場の皆様、また日頃からお世話になっている中部横断自動車道推進事務所の皆様に心から感謝申し上げます。また今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

# がんばってしま～す。 Fight!

Vol.43 March.2018



林業振興課  
木材資源活用担当  
**浅川 公則**  
(北杜市)

平成 29 年 4 月より、北杜市から交流派遣職員として森林環境部林業振興課でお世話になっております。配属された当初は、業務の中で飛び交う専門用語に四苦八苦し、自分自身の基礎知識の無さを痛感し、慣れない県庁のシステムや環境の変化に戸惑いを感じていましたが、周囲の方々からの温かいご指導とサポートに支えられ、なんとか今日に至っています。

私は現在、木材資源活用担当として木質バイオマスの利活用を主な業務としています。配属当初は「木質バイオマス」という言葉は聞いたことがあっても、よく分かっていないものでした。

日々の業務を行っていく中で、研修や先進地視察など、山梨県内の木質バイオマス利活用の取組みを行っている協会の方々からのお話を聞いて、少しずつですが分かってきたような気がします。

私の地元である北杜市では、森林資源も多く、間伐等は行っているものの、木質バイオマスとして利活用する取組みはあまり進んでいるとは言えませんが、私がこの担当へ派遣されたことによって、今後、北杜市が木質バイオマス利活用の取組みを進めていくという現れだと思い、日々業務を行っています。

市役所に戻る時には、県庁内や他市町村での人脈が自分の財産となり、出向の経験が活かせるよう一日一日を大切にしていきたいと考えております。

最後になりますが、山梨県へ出向する機会を与えて頂いた北杜市の皆様、温かく迎えて頂いた林業振興課及び関係機関の県職員の皆様方へ心より感謝を申し上げるとともに、今後もご指導のほどよろしくお願いいたします。



富士・東部建設事務所  
道路課  
**石井 俊博**  
(大月市)

平成 29 年 4 月より大月市から派遣職員として富士・東部建設事務所道路課北部道路担当に配属となり、早くも 1 年が経とうとしています。

配属された当初、事務処理の進め方やシステムの違いなど職場環境の違いに戸惑いを感じ、大きな不安と緊張がありましたが、周囲のみなさまのご指導、ご助言をいただき、少しずつ慣れていくことができました。まだまだ、至らない部分が多くありますが、みなさまに支えられ今日まで過ごすことができました。

私は国・県道の道路整備事業の設計・発注・監督業務を行っており、担当している地域は、小菅村、丹波山村、大月市です。地元である大月市内の事業に携わることや、市ではなかなか経験することがない規模の大きい工事や設計に携わること、やりがいと責任を感じながら日々奮闘しております。また、昨年 8 月の台風 5 号の豪雨により、大月市のシンボルでもある岩殿山を中心に道路が被災し、その災害復旧事業における災害査定受検や 12 月の道路局会計検査の受検など貴重な経験をすることもできました。

この派遣で得た知識や経験を大月市に戻った際に存分に活かしていけるように、今後も業務に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、富士・東部建設事務所道路課のみなさまには大変お世話になっております。感謝申し上げますと共に、今後ともよろしくお願いいたします。



市町村課  
税政担当  
**望月 利人**  
(韮崎市)

平成 29 年 4 月より韮崎市から市町村課税政担当で研修生としてお世話になっております。

私は主に固定資産税の償却資産、軽自動車税、たばこ税を担当しております。

早いもので研修期間も残すところあと 2 か月ほどとなりました。

思い返すと、4 月当初すぐに減収補てんの検収業務を担当し、知識の無さや制度の複雑さから苦戦する日々が続きましたが、過去の担当者の方々が残してくれた資料などを頼りに何とかとりまとめ、総務省へ提出することができました。

その後、固定資産概要調書の検収や課税状況調の検収を行い、普通交付税の基礎数値算定業務や特別交付税基礎数値算定業務にも携わらせていただくなかで、県としての視点・考え方や業務の進め方を学ばせていただきました。

9 月の末からは交付税検査の業務に従事し、普段なかなか行く機会のない市町村を訪ねることもできました。

また、今年度は衆議院議員総選挙が行われ、県の選管として選挙事務に携わることができたことも貴重な経験になりました。

この研修期間で勉強させていただいたことや一緒に仕事をした山梨県庁の皆様や研修生の仲間との絆は自分にとって大きな財産となりました。

今後はこの研修で学んだことを生かし、韮崎市にはもちろんのこと山梨県にも貢献できるように業務に励んでいきたいと考えております。

最後に、日ごろからお世話になっている市町村課の皆様と各種調査等の照会に迅速にご対応いただいている各市町村のご担当者の皆様、研修の機会を与えてくださった韮崎市の皆様に感謝申し上げます。

都留市 生涯学習課  
主事小林 久貴  
Hisataka Kobayashi

私は平成29年度に採用され、教育委員会生涯学習課のスポーツ振興担当へ配属となりました。主に市内の体育施設の管理や軽スポーツ教室、水泳教室などの多くのスポーツ事業に携わっています。子どもからご年配の方まで幅広い年齢層の方と接するため、貴重な体験をさせていただくとともにスポーツ事業を実施する中で健康作りの難しさを日々痛感しています。

近年は交通機関の発達、内勤労働の増加、スマートフォンやゲームなどの室内で楽しめるものが身近に増え、運動をする機会がない方が多くいます。私自身も学生時代に比べて体を動かす機会が大幅に減少しました。しかし、心身の健康には運動は不可欠です。2020年東京オリンピック・パラリンピックを2年後に控え、スポーツに注目が集まる中、担当者として住民の方に運動を始めるきっかけ作りをし、スポーツを通して地域の活性化、住民の心身の健康保持増進に取り組んでいきたいと思っています。

## 市町村職員

大月市役所 市民生活部  
市民課 戸籍住民担当藤本 梨菜  
Rina Fujimoto

平成29年4月に大月市役所の職員として採用され、早一年が経とうとしています。配属された市民課戸籍住民担当では、主に住民票や戸籍などの各種証明書の交付や、印鑑登録、住所異動、戸籍届出に関する業務に携わっています。

窓口には住民の皆様が様々な目的を持って訪れ、当初はその対応に不安や緊張で落ち込むこともあり、また電話対応では相手の言葉が上手く聞き取れずに苦慮したこともありました。

さらに、戸籍の届出書類の審査事務では専門的な知識が必要とされ、その処理は緊張を伴うものばかりで毎日が勉強の日々ではありますが、その分習得したことが活かせることにやりがいも感じています。

今後も先輩方にご教授いただきながら勉強を積み重ね、ひとつひとつの仕事に心を込め、丁寧に取り組むよう心掛けていきたいです。

市民課の窓口事務ではありますが、市役所全体の窓口という意識を持って、訪れる全ての方々に、親切でわかりやすい対応をしていきたいと思っています。



小菅村 総務課

**小林 貴大**

Takahiro Kobayashi



私は平成28年4月から小菅村職員として採用され、総務課に配属されました。主に防災、地域交通、議会事務を担当しています。

本村は人口730人ほどの小さな自治体で職員数も限られています。先輩方も多くの業務を兼務していますが、私自身大変だと感じたことはなく、むしろ恵まれていると感じています。幅広い業務に携わることで新しいことを発見できたり、勉強できることは小規模自治体ならではの、より多くの村民の皆さんと関わるのでいろいろな話を伺うことができます。その中で私が感じていることは、小菅村の村民は「人との繋がりを大切にしている」ということです。例えばイベント事を実施する時の団結力や一体感はずいものがあります。私も村民の皆さんの人との繋がりを大切にする気持ちや相手の立場にたった行動を日々心掛けていこうと思います。

まだまだ勉強することは多くありますが、「小さいからこそできる」強みを生かしながらこれからも業務に当たっていきます。



丹波山村 温泉観光課

**磯部 智博**

Tomohiro Isobe



皆さんこんにちは。私は平成27年4月に丹波山村役場の職員として採用されたことを機に移住をしました。

私が担当する温泉観光課では、村内にあるローラーすべり台や温泉施設などの観光施設管理、観光に関する問い合わせのご案内やイベントの運営を行っております。山梨県で一番人口の少ない村ですが、キャンプ、釣り、紅葉、温泉、登山など自然を活かした観光資源のおかげで多くのお客様に訪れていただき、その方々により満足していただける様な施設管理や対応を心がけて日々業務しております。

平成29年9月に異動となり温泉観光課の担当となりましたが、まだまだ行政経験が短く、小さな村で職員の数が少ない中業務を兼務することが多々あり様々な知識を必要とするもののほか、山間部ならではの経験をする事が多く日常生活ではとても経験できない事があり、登山で険しい山を登ったりすることなどは想像しておらず大変ですが、その分村へ反映する事も多くやりがいや達成感もあるので先輩方に手助けや助言いただきながらより一層村に貢献できる様努力していきたいと思っています。

# 市町村振興協会たより

## 市町村振興協会について

公益財団法人山梨県市町村振興協会は、サマージャンボ宝くじの収益金を財源として、山梨県内 27 市町村の振興と県民福祉の増進に資することを目的に、昭和 54 年 4 月に設立され、平成 24 年 4 月に公益財団法人に移行いたしました。

主な事業としては、市町村の行う災害防止対策事業及び公共施設等整備事業に対する資金貸付事業や、多種多様になってきた行政ニーズに対応するための市町村職員の効果的な人材育成への支援や情報提供など、市町村の振興を支援する事業を行っています。

また、ハロウィンジャンボ宝くじの収益金は、平成 13 年度の発売以来、全額を市町村に交付し県民の皆様の福祉向上や地域社会の振興のために役立てられています。

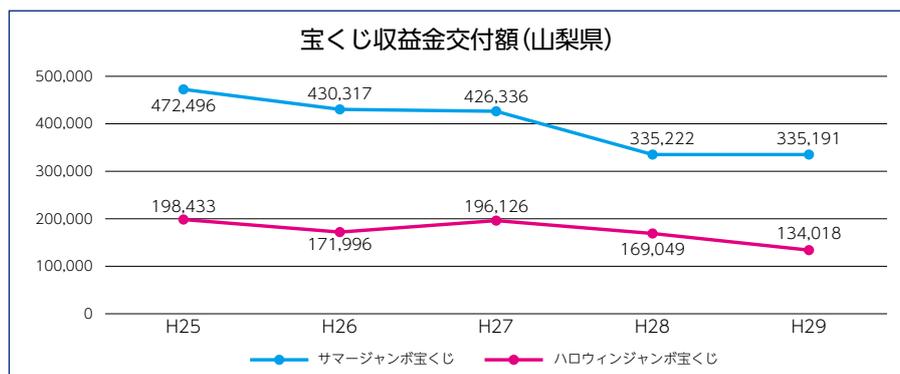


宝くじ「幸運の女神」保坂理事長(甲斐市長)表敬訪問

## 宝くじの発売状況について

宝くじの売上は、全国で平成 17 年度の約 1 兆 1,047 億円をピークに減少傾向にあり、平成 28 年度は 8,452 億円とピーク時と比較して 23.5% 減少しております。

この傾向は、サマージャンボ及びハロウィンジャンボの売上に関しても同様で、「サマージャンボ宝くじ」は、本年度までに 5 年連続の減、「ハロウィンジャンボ宝くじ」は、28 年度が 16.3%、本年度も 10.7% 減となったところであり、本県への収益金の交付額も減少しております。



### 宝くじの発売促進について

本協会でも、本宝くじの売上確保に向けて、各種PR活動に努めておりますので、各市町村におかれましても、魅力あるまちづくりのための貴重な財源である宝くじの販売促進に一層のご協力をいただけますようお願いいたします。

サマージャンボ宝くじ

発売期間 平成30年7月9日(月)～8月3日(金)

ハロウィンジャンボ宝くじ

発売期間 平成30年10月1日(月)～10月23日(火)





水越 欣一さん

Kinichi Mizukoshi  
(富士吉田市 産業観光部  
商工振興課長)

## 『ハタオリマチのハタ印』プロジェクトで 織物産業を活性化!



富士山の麓に広がる富士吉田市と西桂町は、1000年以上続く織物産地です。しかしながら昭和50年代以降の急激な時代の変化は、世界に高品質な製品を供給している高い技術がありながら、涙を飲んで廃業していったハタオリマチの職人も数多くいます。このような中、歴史あるハタオリの文化や産業を次の世代に繋ぐため『ハタオリマチのハタ印』プロジェクトに取り組んでいます。

具体的には、ハタヤだけでなく準備工程の職人にも焦点をあてた織物に関して日本一詳しいHP (<http://hatajirushi.jp/>)により、富士吉田・西桂地域が、優れた織物産地であることの認知を高めるとともに、小さなブランドやデザイナーなどが小ロットでも発注できるサイトの構築を進めています。また、工場を開放して、ものづくりの現場や作り手の思いを伝えながら、商談や商品を販売するオープンファクトリーは現在11社(今年は新たに4社開設予定)が開設し、特に県外から多くの方々にお出でいただいています。この動きは新たな観光のコンテンツとしても有効だと考えています。さらに、ホテルや観光施設など流通事業者を巻き込んだ商品の開発や販路拡大の取り組みも進めています。

これらの取り組みと連動し、観光部門と連携する中で、一昨年から毎年秋に「ハタオリマチフェスティバル」を開催し、全国の織物に関心のある多くの人々が富士吉田に訪れてくれました。

全国の繊維産地が低迷を続ける中で、富士山の麓から織物を通した新しい可能性を発信していきます。

## AFTER NOTES

### 編集後記

今回の特集は、県をはじめ市町村の「東京2020オリンピック・パラリンピック」を契機に人的・経済的・文化的な相互交流を図る「ホストタウン」や事前合宿の誘致の取組みについて紹介をいたしましたが、特集をはじめ各コーナー等本号の発行に当たり、ご多忙中執筆いただいた皆様には、心から感謝を申し上げます。

今後とも市町村職員にとってよりよい情報誌になるよう内容の充実にも努めて参りますので皆様からご意見等お寄せいただければ幸いです。

### 市町村職員情報誌「やまなし自治の風」編集委員会委員名簿

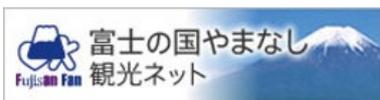
役職名	団体名	補職名	氏名
委員長	甲府市	総務課主事	今福 康太
副委員長	鳴沢村	総務課主事	渡邊 勇介
委員	大月市	企画財政課主事	坂本康次郎
	韮崎市	企画財政課主事	藤巻 亮平
	南アルプス市	政策推進課主事	中村 直貴
	上野原市	企画課主査	大神田道成
	身延町	政策室主任	望月 雄
	南部町	企画課主任	渡邊 寛明
	西桂町	総務課主事	川村 北斗
	山中湖村	企画まちづくり課係長	羽田 明弘
	山梨県	市町村課主任	坂本 千史
	山梨県市長会	総務課主査	佐野 正子
山梨県町村会	振興課主事	武藤 大和	

週末は  
山梨に  
います。

## 富士の国やまなし 観光ネット



イベント情報や定番から穴場までの  
観光スポットをご紹介します！  
山梨の魅力が満載の、山梨県公式観光サイト



<http://www.yamanashi-kankou.jp>

## FUJISAN ACTIVITIES

～ Yamanashi Official Guide by NAVITIME ～



お近くの観光・体験施設まで  
らくらくナビゲーション！  
便利でお得な機能付きの、山梨県公式観光アプリ



FUJISAN  
ACTIVITIES  
Yamanashi Official Guide by NAVITIME



観光

是非、情報をお寄せください



水と太陽にはぐくまれた「本当においしいもの」  
を紹介するスペシャルサイト



水と太陽のレシピWEBサイト  
<http://mizutotaiyo.jp>

物販

食材



アンテナショップ富士の国やまなし館  
レストランY-wine(わいわい)

東京都中央区日本橋2-3-4日本橋プラザビル  
<http://www.yamanashi-kankou.jp/tokyo/>

山梨県観光プロモーション課 TEL055-223-1557